

Vol.17

Seium



Interview

輝く人

普通科14期生 阿部祐輔さん
4人からのメッセージ

恩師から 紀 禎哉先生・木内秀和先生

同窓会報告

幹事's 同窓生探訪

新幹事のキャンパスライフ

泉ヶ丘祭報告

泉ヶ丘通信 club activity / 卒業生母校に帰る / アドミッションセンターより

新 校長
副校長
教頭

3人からの
メッセージ



帝塚山学院泉ヶ丘同窓会会報

<http://www.tezuka-i-h.jp/dousoukai/>

撮影：稲見 伸介(普通科7期生)

阿部祐輔 × 紀 禎哉 先生

阪急電鉄株式会社 不動産開発部
梅田地区の開発プロジェクト担当

帝塚山学院泉ヶ丘高等学校 社会科教諭

紀先生：お～元気か？入社して何年目やねん。

阿部さん：5年目ですわ。（懐かしさと久々の再会に近況報告から話が弾む。）

紀先生：市大に頑張ってるってんな。

インタビュー：何学部に入られたのですか？

阿部さん：文学部に入り、2年目から人間行動学科の地理学専修に進みました。都市計画、まちづくりについて学びたいと考えたためです。でも元々は臨床心理学に興味があったのですが、自分の気持ちを保つだけでも大変なのに、人の心にまで責任をもつ仕事はできないだろうということで別の道を考えていました。いろいろ考える中で、都市の形成過程や都市構造について興味を持つようになりました。紀先生の授業でのお話がおそらく根底にあったのではないかと思います。高校の時から地理は好きでしたし、大学について相談にいくと、大阪市大を勧められたので、市大に進学することに決めました。

紀先生：市大には、都市計画や都市問題について研究されている。水内俊雄という君の20歳ほど年上の若手のすばらしい研究者がいたので、よい教官になってくれると思ったんだよ。

阿部さん：確かに大阪市内から東京、大学院の時にはホームレス支援の研究で海外まで連れまわしてくれました（笑）。

帝塚山泉ヶ丘という存在は人生にとって大きいものだと思います。



梅田阪急ビル

インタビュー：大学での勉強が今に繋がるのですね。それでは、現在のお仕事について詳しく教えてください。

阿部さん：4年目の昨年夏から、阪急百貨店うめだ本店が入っている梅田阪急ビルの建替プロジェクトに関わっています。建替プロジェクトの仕事は、工事の推進、行政との協議、近隣関係者との協議など多岐にわたるのですが、私は2010年5月に開業したオフィスタワーのテナント誘致や契約条件交渉から入居までの手続きに加えて、ビルのルールや運営体制などビル全体の管理を考える仕事をしています。入社して2年強は、子会社に向向して既存ビルのテナント対応や運営管理の仕事をしていました。3年目でマンションの管理会社の立ち上げの業務、4年目に今の開発の仕事に就

阿部 祐輔 普通科14期生
Yusuke Abe
帝塚山学院泉ヶ丘中学校、高等学校卒
大阪市立大学文学部から大阪市立大学大学院文学研究科地理学専攻に進み、都市計画、まちづくり、都市問題を中心に研究。2006年に阪急電鉄株式会社入社し、商業・オフィスビル・マンションの運営管理を経験し、現在、梅田の開発プロジェクトを担当

きました。若手の間はいろいろな部署を経験し、適性を見ながら将来のキャリアを考えていく、今はその途上にいるという状況ですね。

紀先生：郊外の都市も立体化が進んで、既存型の都市構造を変えていく開発が進んでいるね。千里ニュータウンのような郊外の都市も、パリアフリーであるとか新たな都市創生を考える時代に入っているし、それを考えていくのが今後君たちの大きな役割だと思う。その最先端にいるのが、とても羨ましいよ。

阿部さん：そうですね。郊外でも「彩都」という新しいニュータウンの開発にグループとして関わっていますが、ただ建物を作るだけでなく、事業者が住民のコミュニティづくりを促進する手伝いをするなど、今までのニュータウン開発とは違った動きも出てきています。戦後の高度成長期に建設された市街地が、今後更新の時期に入っていきますから、今あるものをどのようにリニューアルし、必要な都市の機能を付加し、新たな都市の形を模索するという仕事が増えてくると思います。梅田の開発でも考えることは同じです。梅田阪急ビルは昭和4年に建設されたもので、現在建替という形でリニューアルをしていますが、同じように古いビルが梅



梅田・沿線周辺の価値をどう上げていくかを考えていかなければならない。

田界限にはたくさんありますので、その更新を進めるにあたって、今梅田に何が求められているのか、梅田をどんな街にするのか、そして梅田全体の価値・魅力をどう上げていくかを考えていかなければならないと思います。

紀先生：そうだな。梅田もほとんどが60年代後半の建物だから、企業や来街者へ訴求する魅力がなくなってくるな。ただ新しい都市に脱皮するとしても、オフィスや商業の供給過剰になってはいけないので、海外企業の誘致など全体的なパイの拡大も必要だな。魅力ある都市を作るためには、阪急1社だけではなく、他の事業者や自治体、国も含めて、協力しながら総合的に開発するべきだろうな。

阿部さん：今、別の新規のプロジェクトにも関わっているのですが、そこでは他の鉄道会社や事業者、行政や有識者の方々とも今後の梅田について考える勉強会をすることもあります。開発や企業誘致の促進のための規制緩和策について、行政サイドから意見を求められることもあります。まちづくりにおける官民連携が進んでいるように思います。またエリアマネジメントという考え方も出てきて、地域に関わる事業者や住民が連携して、街の魅力向上の取り組みを行っています。例えば、梅田は来街者にとって道がわかりにくいとよく言われるのですが、それに対して阪急、阪神、そしてJRも協力して梅田地区の地上と地下を地図の表裏に記載し、英語、中国語、韓国語も追記した地図を作成し、各所で配布しています。まだ小さな動きではありますが、梅田全体の価値をソフトの面からも向上させていく取り組みは今後増えていくと思います。

紀先生：大阪、近畿、西日本全体を考えても、橋下知事の言うような「日本のハブ」になるのは難しいし、東京にはなかなか太刀打ちできない。だからこそ、大阪はコンパクトながらも西日本の中核として、大阪らしくビジネス、商業、文化の核でなければならないね。（話は尽きることなく、先生と教え子の街づくりについての熱い思いが討論された。）

インタビュー：高校生活をふり返って、どんなことを思い出されますか？

阿部さん：一番思い出に残っているのは、高校2年生の時の泉ヶ丘祭ですね。演劇をやったのですが、みんな遅くまで学校に残って練習したり、時にはけんかもしながらワイワイやりましたね。みんなで一つのもの

を作り上げた達成感がありました。私が担当していた音響部門だけ賞がとれず、坊主にさせられたりなんてこともありましたけど（笑）。今でもよく飲みに行く友達もその時のメンバーですね。

インタビュー：今までの人生の中で、感銘を受けた事柄や人に会われたことをお聞かせ下さい。

阿部さん：高校、大学、社会人といういろいろな出会いがあって、ひとつに絞ればいいですね。

感銘を受けたということではないですが、私にとって、「帝塚山泉ヶ丘」という存在は人生にとって大きいものだと思います。決して同窓会誌向けのコメントではなくて（笑）。

人生の岐路には、なぜか学校を訪れていて、進むべき道を示してくれたように思います。大学を選ぶ時もそうでしたし、阪急に入ったことも紀先生とお話したことが大きなきっかけでした。

インタビュー：卒業しても、人生に迷いが出てきたときには、学校に一度行きなさいということですね（笑）

阿部さん：そうですね。何かパワーがあるのかもしれないですね（笑）。中学校、高校時代と自分のことを見てくれていた恩師の言葉は、どこかで生きてくるものだと思います。僕は、最近なかなかいけないのですが、大学時代は毎年1度は顔を出していましたね。学校は僕にとっては、今でもよりどころなのかもしれませんね。

インタビュー：最近、はまっている事や気になる事はありますか？

阿部さん：スキューバダイビングですね。入社して1年目の夏に始めました。最近なかなかいけないので、ウズウズしているのですが……。

インタビュー：ダイビングが息抜きなんですか。

阿部さん：水の中はまったく別世界ですよ。普段見られない光景です。水の中になると普段のことは全部忘れて、リフレッシュできますね。海に包まれている感

がなんともしない魅力です。それとこれも入社してからですが、マラソンを走ってまして、今まで10キロやハーフマラソンしか経験したことがないので、今年あたりで、フルマラソンに挑戦してみたいですね。それから、去年の11月に社員寮から大阪城の近くの谷町に引っ越したのですが、雑誌に載っているお店が近くにたくさんあるので、自転車でふらっと探索しています。いいお店があったら梅田にも来てくれたらと思いつつ、研究の意味も込めてブラブラしてます。最近のいい息抜きですね。

インタビュー：泉ヶ丘の同窓生や、在校生に何か伝えたいことはありますか？

阿部さん：高校や大学時代の時間のある時に、何でもいいので、一つ、一生懸命打ち込めるものと出会ってほしいと思います。必ず社会に出た時に、「あの時これで頑張った」という自信につながりますし、その経験は自分を輝かせる魅力になると思います。

インタビュー：今後の夢をお聞かせ下さい。

阿部さん：阪急に入ったきっかけが、自分が育ってきた京阪神を魅力あるまちにしたいという思いでした。フィールドは梅田か沿線地域か、不動産事業かまた別の事業かもしれませんが、地域の魅力だと自他ともに納得できるものをひとつでも多く創ってほしいと思います。

インタビュー：今後の夢をお聞かせ下さい。

阿部さん：阪急に入ったきっかけが、自分が育ってきた京阪神を魅力あるまちにしたいという思いでした。フィールドは梅田か沿線地域か、不動産事業かまた別の事業かもしれませんが、地域の魅力だと自他ともに納得できるものをひとつでも多く創ってほしいと思います。



紀 禎哉 著書
近畿を知る旅 ―歴史と風景―
(ナカニシヤ出版)

歩く、見つける、旅をする。近畿の身近な風景。歴史が息づいた近畿6府県53の地域を網羅し、日帰りで気軽に足を運べるようなコースを提案。一味ちがった近畿の旅が楽しめる。



輝く人

ペットの保険会社を作る仕事

国際科 2期生 稲松 直子
ペット保険 アニコム損害保険(株)

私は現在ペットの保険会社に勤めております。ペットに保険?と思われるかもしれませんが、当社では犬・猫・鳥・うさぎ・フェレットが加入可能で、現在契約数は約30万件です。

私の仕事は業務管理部という部署で保険会計の企画を行っており、具体的には会計システムの要件・業務フローの構築や新しい決済方法の導入、会計オペレーション部門の管理等ですので、あまり仕事上は動物とは関係ありませんが、時々会社にわんちゃんがきたりするので、その時は一瞬なごみます。

大学卒業後、損害保険会社に入社しましたが、その時の同僚が会社を辞めペット共済を起業したのが現在の会社の前身です。起業して頑張っていることは知っていましたが、大阪支店を出し今日大阪に来ている……という日に、懐かしさと好奇心で会いに行ったのが5年前。「保険会社を作らないか?」という言葉に、その時は新卒で入社した会社はやめていたので気軽な感じで2ヵ月後に入社し、大阪勤務希望の為1ヶ月の約束で東京に出張したはずが、東京配属となり今4年半近くがたちました。

保険会社には勤めていましたが、保険会社を作ったことはないの、マニュアル・業務フロー等をいざーから作ろうと思うと、どうすればいいのかわからないことも多々ありました。しかし保険会社の免許を取得するという通常ではめったに経験できない局面に直面し、今となっては貴重な経験のひとつです。

今の会社に来た時、何気ない出来事や過去の縁が影響して今までの生活が一変することがあるんだと実感しました。どこにいても今を大切に頑張っただけから人との縁を大切にしていきたいと思えます。



学生時代に身につけた気質



普通科 7期生 平野 祥之
ケイ・エイチ工業株式会社 専務取締役

私の父がケイ・エイチ工業(株)を創業したのは平成9年。化学工場のプラント設備設計及び工事を主な事業内容とし、当初は順調に業績を伸ばしてきました。ただ取引のほぼ100%を大手半導体メーカー1社が占めていたため、その会社の業績次第でこちらの業績も決まる、という状態でした。私が入社したのは平成11年。まず、この1社依存状態から抜け出すことが課題でした。前職は小学校の教師だったため業界に関することもろくに知らず、当初は試行錯誤の日々でした。

そんな中、昔からの知り合いに紹介してもらった中小企業経営者たちの勉強会に参加しました。同じような悩みを抱えながらも、前向きに経営に取り組む他の参加者の皆さんとの交流はとても刺激的でした。もともと人と接することが好きだったこともあり、皆さんの助言を参考にしながら新しいチャレンジを繰り返すことが、業績回復と成長につながったように思います。

入社10年を過ぎた現在では、取引先は化学工場だけでなく食品や医薬品業界などへ広がり、人材派遣部門を立ち上げ別会社とし、また韓国メーカーの集塵機や配管材の代理店になるなど事業構造は大きく変化しました。

自分の強みは自分ではよくわからないのですが、人からは「タフ」だと言われます。新しいことを始める際や未知の分野に飛び込む際の物怖じの無さを指してそう言われるようです。そういった気質はやはり学生時代に身につけたものであり、改めて感謝の気持ちとともに帝塚山での日々を懐かしく思います。



言語聴覚士との出会い



言語聴覚士(ST)ってご存知ですか?

国際科 6期生 泉谷 聡子
聖路加国際病院 リハビリテーション科

この仕事を始めて9年目になります。東京・築地にある聖路加国際病院でSTとして働いています。STとは、コミュニケーション障害や嚥下障害(食べる障害)、聴覚障害を持つ方々のリハビリを支援する職業です。コミュニケーション障害は主に脳卒中や脳外傷などで脳を損傷した場合におこり、失語症や構音障害といった症状が現れます。最近では記憶や注意力が低下するといった高次脳機能障害が注目されてきており、広い意味での脳のリハビリを担当しています。また、高齢者の嚥下障害の患者さんは日々増加しており、私の一日は、朝食での嚥下訓練から始まり、1日20人程の患者さんと向き合っています。私のリハビリのモットーは「楽しく」です。急性期病院なので、重症な患者さんも多く、リハビリが辛く負担になる方もおられますが、症状の回復はもちろん、気持ちも心地良くなってほしいと思い、日々取り組んでいます。

泉ヶ丘に通っていた頃は、将来病院で働くとは夢にも思っていませんでした。ソ連が崩壊、ベルリンの壁が崩れ……といった国際情勢に大きな変化があった高校時代、国際関係に興味を持ち東京外国語大学に進学、チェコ語を専攻しました。STとの出会いは、大学3年生の頃でした。言語学・音声学の講義で、それらが役に立つ職業あることを知り、たった1回の講義が私の運命を決める出会いとなりました。しかし、STになるまでは紆余曲折があり、大学院に進学、結婚してからのST養成校での学生生活を経て、結局働き始めたのは28歳のときでした。

～Where there is a will, there is a way.～泉ヶ丘時代に会った言葉…目標を持つことの大切さを学びました。好奇心にあふれた高校時代を懐かしく、時々思い出しています。



“他国を知って 自国を知る”



普通科 9期生 坂本 洋城
医学博士 近畿大学病院消化器内科

医師になり11年、現在私は消化器内科医として近畿大学病院で勤務をしています。専門分野は胆膵領域で超音波内視鏡検査という最先端の内視鏡検査を用い早期膵臓、胆道癌の診断治療に



ついて、臨床研究を行っています。そして、海外に行き、海外の人達と接する度に、いろいろなことを“知る”ことができます。昨年、ドイツのハンブルグ大学病院で約1年間、臨床研究で留学する機会を得ることができました。そこでは、自分が考えていた以上に日本の医療が海外では一目置かれていると実感しました。また、世界各国でたくさん日本人医師が早期癌の内視鏡治療などのライブデモンストレーション公演を行い、喝采を浴びている所を目の当たりにし、日本で医療をしていること、また日本人であることが誇りを持つことができました。医療以外にも日本と他国との違いをたくさん気づくことができました。例えば、日本でどこにでもある自動販売機、でも海外では自動販売機はあまりお目にかかることはありません。ギリシャ人と話をすると自動販売機は頻りに故障するみたいでお金をいれてもジュースが買えない、エジプト人と話をすると道端に設置すれば、翌日には自動販売機ごと盗まれるため設置なんか考えたこともなく、ヨーロッパで治安のよいドイツでさえ、自動販売機を盗まれないように駅でしか設置していないという。日本の技術力、治安のよさを改めて確認できました。その他にも文化、風習の違いに幾度となく驚かされ、考え、“知る”ことができました。もちろん、日本には無い他国の素晴らしい文化や風習なども経験し“知る”ことができたと思います。例えば老後の楽しみ方、ドイツの老人はすごく元気で、自転車によって運動したり、湖が凍ったときには老夫婦が手をとりあって、骨折も恐れず、楽しそうにスケートをしていたり、週末は若者に負けじと夜遅くまで夫婦や仲間達でビールを飲んで、歌って踊っている。こんな余生の楽しみ方もあるんだなと気づくことができました。こういった貴重な経験を自分の宝とし、これからの医療や日常生活に生かせればと思っております。これからも“他国を知って自国を知っていければ”と思っています。最後に、突然の海外留学にも関わらず、嫌な顔せずついて来てくれ私を支えてくれた妻と愛息子達、日本から私達を支えてくれた両親にこの場をかりて感謝いたします。

恩師から

「人と地域と」



紀 禎哉 先生 (社会)

同窓生の皆さん、誌上ではなんですけど、お久しぶりです。お元気にお過ごしでしょうか。私は今、教科指導とともに生徒会活動のサポートを学校では主に担当しています。時が流れるのは早いもので、本校に勤務してから25年が過ぎ、体型が大きく変化するとともに髪の毛に白いものが混じりだし、青春真っただ中の現役生と向きあうたびに、自分の年齢を感じる毎日です。

今振り返ってみると、勤務した当初より多くの生徒諸君と関わることができ、そのことが私の大きな財産となっているような気がします。確かに、出会った同窓生の皆さんのなかには、同じ価値観を共有できた方もいらっしゃるかもしれませんが、いつも脳裏に浮かんでくるのは、ことある毎に衝突した『やんちゃ坊主達』の顔です。

教員に成り立ての頃、一年間で約1000題の問題を課題とし、無理難題を君たちに要求してきたこともありましたが、その要求に文句を言いながらも答えてくれた一期生のN君(現在JR西日本に勤務されていると思います)が。君のだから私には救われましたし、今となっては只々感謝している次第ですよ。授業を担当することはありませんでした。補講によって知り合えた二期生のY君達。君達との卒業後の台湾旅行(総勢約10名)は、今もなお、あらゆる意味で心に残っています。沖縄研修旅行で本部半島の長い坂道を共に歩き、目にも鮮やかなサンゴ礁の展望とさわやかな風を共感した四期生の自然班の諸君。嵐山展望台近くのパイナップル農家のおばちゃんから食べさせてもらった取れたての味はいまでも忘れることはできませんね。このように書き出せばきりがありませんが、君たちとふれ

あったその一瞬一瞬が、私にとって大きな感動であったように思えます。

また、自分が地理の原点をいつも考えることができたのは、『先生、行ったことのない地域をよーそんなに説明できるな。それってほんまか?』という君たちからの問いかけの一言でしたよ。当時は自分も若く、『それやったら、自分の足で歩いて教材を作ってやる。』と考え、南北アメリカ大陸を除く地域に足跡を残し、夏休みの度に海外に出かけていましたが、わずか一部でも地理教育の場に還元できたのは、あの当時の君たちの一言があったからであると現在でも感謝しています。

しかし40歳を越えた頃から、地理を教えることに対して何らかのジレンマに陥ったのも確かです。そのジレンマとは、『海外に行くことに自己満足し、地元の研鑽を置き去りにしてきたのではないだろうか』・『受験地理に終始し、学問の本質を置き去りにしてはいないだろうか』など。足元を見ることの大切さを忘れていた事に気付きました。

地理学では地域主義という言葉があり、地域を大切に、そこに住む人々を観察することが国際理解の第一歩であるということは今更ながら考える毎日です。そういう意味合いにおいて、学校はまさにこの地域の中の最小単位。ここにいる多くの人たちを、今後とも観察したいと考えるこの頃です。

同窓生の皆さんはこの地域(学校)の出身者。誰しも、その心の奥には帰巢本能があると思います。日常に忙しい毎日ですが、いつの日かこの校内で会おうではありませんか。

卒業生のみなさん、こんにちは!体育科の木内です。泉ヶ丘校開校2年目から勤務して、主に柔道を担当した関係で男子の卒業生は、全員教えさせていただきました。どう?思い出してくれましたか?元気でやっていますよ!泉ヶ丘校も開校して、はや28年が過ぎようとしています。その間、約6,000名の卒業生を送り出し、柔道有段者も延べ人数118名になりました。時がたつのは、本当に早いものですね。年代を問わず卒業生諸君には色々とお世話になり、また、いつも遊んでもらって感謝しています。先日、サッカーW杯では、深夜まで一緒に日本代表を応援したサッカー部OB諸君!PK戦は残念だったけど心は一つになれましたね。そして嫌な顔ひとつせずいつもゴルフに付き合ってくれるK君!本当にありがとう!また、朝まで語り合っ二人で飲みつぶれたH君!君の人生は、波瀾万丈だけどころすばらしい人生になりますよ。アメリカでお世話になったS君!日本に帰国されたそうですね。また連絡下さい。このように卒業生諸君との交流にはきりがありません。紙面をお借りしてもう一度感謝の意を表します。

さて、私が教員という職業に憧れたのは高校生の時でした。静岡の高校で、ふとしたことから2年生より担任の先生の家に下宿することになったのです。成績があまりよくなかった私にとって、肩身の狭い生活が始ま

りました。しかし、そんな生活の中で毎週末といっいほど、その担任の先生の自宅に卒業生や学校の先生たちが訪れて、深夜遅くまでわいわいがやがやとやっているのです。テスト前の生徒である私にとっては迷惑な話でしたが、不思議なことにとっても羨ましく思えたのです。今思えば、教員を目指した原点はそこにあったような気がします。卒業生諸君にとっては我々泉ヶ丘校の教員は、ずっと先生であるかも知れませんが、私は、卒業してからは人と人として一生付き合えるような人間でありたいと思っています。ちょうど今、この原稿を書きながら、年に一度の自分の母校が甲子園の予選でどこまで頑張っているか、新聞をくまなく読んでいます。母校愛なんですよ。卒業生のみなさん、たまにでいいですから泉ヶ丘校に帰って来て下さい。きっとリフレッシュ出来ますよ。転勤のない私学ですから、きっとお世話になった先生方へ会えるはずですよ。私たちも、卒業生と会えて昔話をするのが明日への活力になります。最後になりましたが、卒業生のみなさんが、それぞれの場所でご活躍されることを心から祈ります。お体には、くれぐれも気をつけて下さい。今度の11月の総会で、一人でも多くの卒業生にお会いできるのを楽しみにしています。



木内秀和 先生 (体育)

プチ同窓会

東京プチ同窓会 奥村 幸恵(国際科2期生)



6月24日(木)、あと数時間でワールドカップ(日本vsデンマーク)戦がキックオフということで日本中が盛り上がっている日、東京・新宿にて普通科3期生・国際科2期生のプチ同窓会を行いました。当日は、関東在住の8名と関西から出張に合わせて3名が

参加し、総勢11名の集まりとなりました。

なかには、卒業以来22年ぶりの再会だったり、学生時代には話をしたこともない、という人達もいましたが、少人数だったこともあり和気あいあいとした時間を過ごせました。年代的には仕事も家庭もいちばん忙しい頃だとは思いますが、たまにはこうして気心の知れた仲間が集まり、高校時代の懐かしい昔話をするのも楽しいなあと感じました。

今回は急に企画をしたため、連絡をとれた人達だけでプチ同窓会になってしまいましたが、また近いうちに東京同窓会を企画したいと思っておりますので、関東在住の同級生の皆さん、ぜひぜひご参加ください。

また、大阪では卒業年次の昭和63年にちなんで(63(むつみ)会)と名付けた同級生でのゴルフコンペを年2回行っております。ご興味のある方は同窓会事務局までお問い合わせください。

国際科9期同窓会 田中 知子(国際科9期生)

去る8月14日、難波クロスホテルにて国際科9期生の同窓会を行いました。卒業して早15年。中には小学生のお母さんになっている人もいましたが、おしゃべりが始まると、一気に15年前へタイムスリップ!お食事も忘れて、おしゃべりに夢中になりました。

また、幹事数名で懐かしの母校訪問を行った際に撮影したビデオを上映すると、一気に歓声が上がりました。「変わってないー!」「こんなんあった?」「あー、〇〇先生やあ!!」ビデオは大変好評でした。次回は4年後に行おうということになりました。その際は是非、先生方にもお越しいただきたいと思っています。



鳳凰の間におきまして、2010年度帝塚山学院東京同窓会総会が、開催されました。懐かしい先生方や、久しぶりの同窓生との再会を楽しむ事ができました。ゲスト演奏では、大阪から応援の同期や先輩方に全編大阪弁の楽しいオペレッタを披露していただき、大阪の男声コーラス「まつぼっくり」関東在住の同窓生のコーラスグループ「MADAM de DO」の皆様にも素敵な歌声を聴かせていただきました。お世話役として、とても心に残ったのは、短大や大学の短い期間だけ帝塚山学院に在籍されていた同期の協力も得て、楽しく進行できた事が、とても嬉しかったです。同じ学び舎で過ごした時間が、こんなすばらしかったんだ!改めて感激した1日でした。これからも、東京同窓会をきっかけに素敵な再会を、ほのぼのとしたタイムスリップを楽しむ事ができればいいなと、心から願ってやみません。



◎来年も同じような時期に開催されます。参加ご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。Tel. 072-293-8680

陸上部・24期同窓会



平成22年3月22日に難波の卒業生のお店で24期生3年コースの同窓会を開きました。卒業して1年後で、急に集まることを決めてメールで回したにも関わらず、100名中約60名が集まることができました。大学時代は毎年集まろうということになりました。

来年もこの時期に集まる予定ですので今年来れなかった人は来年ぜひ来てください。

国際科16期同窓会 木本 朋美(国際科16期生)



2010年5月1日、文字通り雲一つない晴天の下、国際科16期生の同窓会が開催されました。GW初日、その上、急遽決まった同窓会ということで集まり具合を懸念していましたが大きなお腹を抱え

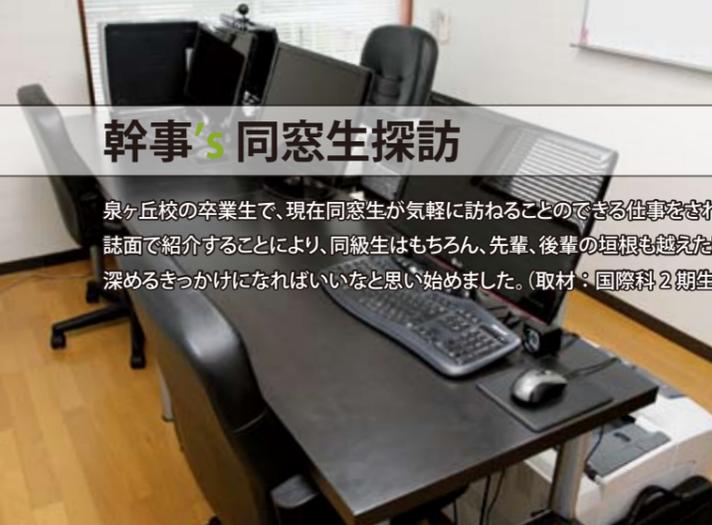
て足を運んでくれた友人、遠方から新幹線に乗って駆け付けてくれた友人をはじめ、総勢20名でしたが大変賑やかな集まりになりました。

卒業して丸8年も経つとみんな立派な社会人になっていて『君たち、すっかりしたなあ...』としみじみおっしゃっていた辻先生と岡先生。嬉しそうな反面、少し寂しそうに見えたのは私だけでしょうか。

ホテル業界で活躍している友人からは「宿泊の時には是非!」、ウエディング業界で活躍している友人からは「結婚する時には声かけて!」、他にも看護士として頑張っている友人、芸能関係の仕事をしている友人、家業を継いだ友人、また教師という職に就き教職をこなす中で、改めて泉ヶ丘の先生方が多大なる愛情をもって一生懸命指導して頂いていたのが身に染みてわかったと涙まじりに話していた友人もいました。場所こそ違えど一生懸命頑張っている人たちは皆輝いています。これからは、与えてもらえる人脈は減る一方ですが帝塚山泉ヶ丘で培った素晴らしい人脈を大切に、また自らも泉ヶ丘生が困った時には手を差し伸べられる一人であるように、皆様これからも温かい心を忘れずに輝かしい人生を歩んで下さい。

幹事's 同窓生探訪

泉ヶ丘校の卒業生で、現在同窓生が気軽に訪ねることのできる仕事をされている方をとり上げ、誌面で紹介することにより、同級生はもちろん、先輩、後輩の垣根も越えた同窓生同士の交流や親睦を深めるきっかけになればいいなと思い始めました。(取材：国際科2期生奥村幸恵、普通科6期生岸本威也)



ジーニアス教育総合研究所

今回、最初に訪問したのは、普通科13期生の島田裕典さんです。現在、大阪狭山市で学習塾やパソコン関連事業、それにプリザーブドフラワー教室を手がける会社を運営されています。(島田さんのお父様は住吉校の教諭をされており、校長も務められた方なので、もしかすると同窓生の中には過去に島田先生の授業を受けられた方もいるのでは!?)

さて、そんな島田さんは、パソコンと経営の両方を学べる学部があったことから大阪経済大学へ進学します。

卒業後、プロバイダ業者へ就職していましたが、もっとお客様に満足してもらえるシステムやホームページを作りたいとの思いが高まり、お父様が退職されたのを機に2003年に独立、開業されました。

経営の大きな柱の一つである学習塾は、現在、学校ではめっきり減ってしまったという理科の実験を取り入れた授業を行い、敷地内には植物の成長の観察ができる農園もあります。そのユニークさから、度々テレビニュースや地元紙にも取り上げられたこともあります。また、生徒には現役の泉ヶ丘の学生や卒業生のお子さんが多数いらっしゃいます。

もう一つの大きな柱であるパソコン関連事業は、パソコン本体の購入



からホームページやシステム、ソフトウェアの開発、ネットワークの構築までを一括して管理できるのが強みで、煩雑さやトラブルの原因を減らせるとあって、企業だけでなくさまざまな官公庁や病院等にも実績

があるということです。もちろん、個人向けにも、故障の修理やパソコン講座など幅広くサポートしてもらえるそうなので、パソコンで困った事があれば一度相談してみたいかがでしょうか。

(実際に、エクセルができないのに経理に配属されてしまい、仕事で使う関数だけ教えてほしいと講習の依頼をされた方や、パソコンをカラオケにしたい(!)と依頼され、マイクやスピーカーをつなげるように改造したというお客様がいたそうです。)

同窓生にメッセージ

これからも、企業や地域のIT化向上、次世代を背負う子ども達の教育、年齢を問わず楽しめる各種講座を運営し、地域や社会に貢献し共に成長をしていきたいと考えています。機会があれば是非お越し下さい。



ジーニアス教育総合研究所

〒589-0023 大阪狭山市大野台5丁目19番1号
TEL・FAX 072-367-6665

■ホームページ
<http://www.genius-edu.jp/>

お好み焼 富紗家



続いてお邪魔したのは、普通科5期生の速水ひかるさんです。速水さんのお店はあの人気店、創作お好み焼の富紗家。大阪・空堀にある本店からのれん分けの草分けとして堺市にオープンして12年になります。

速水さんは泉ヶ丘校を卒業後、大学に進学するも一ヶ月で中退、しばらくサーフィンしながら四国を放浪する生活を送ります。

20才の頃からは医療器具販売の会社で営業の仕事がされました。会社員として働いて数年経った頃、知り合いの飲食店からの依頼で、上海にある和食店の現地スタッフの教育係として中国に渡ることになり、こちらでは2年ほど過ごされます。同じ頃、ご友人のところでは、グアム島に新しくホテルをオープンするという計画が持ち上がり。縁あって速水さんも立ち上げに関わることになり、そのホテルが出店する予定のお好み焼き屋を任されることになっていました。

ところが、直前になって出店の計画が立ち消えになり、途方に暮れてしまう事になるのですが、この事をきっかけに空堀店で仕事をすることになり、(速水さんのお兄様と富紗家の店主のご子息が知り合いなのだそうです。)平成10年に独立、現在に至ります。



さて、富紗家といえば、とんとん焼やモーチーズ焼に代表されるお好み焼や、多くの有名人も好物だという豚もやしセロリ蒸しなど、数多くの人気メニューがあります。筆者も今回の取材で久しぶりにいただきましたが、変わらぬおいしさでお腹も満足でした。同窓生や先生方も多数来店されるそうで、取材当日にはなんと谷先生もご家族で偶然来店されるという出来事もありました。

この号が発行される頃には深井から堺東へ移られることになっています。皆さんも一度お出かけしてみたいかがですか?

まんたら ○△□焼とは?

まんたら 曼荼羅は、仏の悟りの境地・世界観などを仏像・シンボル・文字などを用いて視覚的に表したものとされています。ここから、味・色・形が違ってもお好み焼きには変わりがないという意味を込めて○△□焼と名付けられたそうです。

○△□焼 富紗家 堺東店

〒590-0077 大阪府堺市中瓦町1-4-14
TEL 0120-549-238
営業時間
ランチ/11:30~14:00
ディナー/17:00~23:00(ラストオーダー22:30)
金・土/17:00~23:30(ラストオーダー23:00)
ランチ営業、夜10時以降入店可
定休日:不定休



新幹事キャンパスライフ

関西大学編

大学に入学してだんだん慣れてきたとおもえば、気付けば夏休みでした。前期の1日の大学生活について少し書こうと思います。



安原 基晴
(普通科 25 期生)



大学に入学し、早4ヶ月。本当にあつという間でした。はじめは大学の単位やら履修やら高校とはまったく違うシステムなため、慣れないし戸惑いながらも毎日通い、自分にあったサークルも見つけ、それなりに大学生活にも慣れてきました。ここで僕の関西大学でのキャンパスライフについて紹介したいと思います。

西脇 大樹
(普通科 25 期生)

7:00 起きる

大学は高校と違い9時から授業なので少し遅くて案です。

7:30 出発

通学に梅田を通るので帰り道とかに寄り道ができて楽しい!

8:30 到着

関西大学はマンモス校なので色んな人と関わる事ができ、サークル等もいっぱい選べて楽しい所です。

9:00~16:00 授業

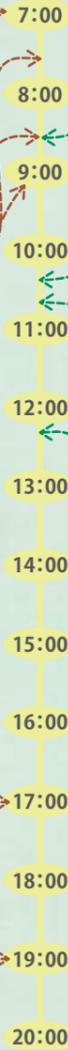
大学の授業はやはり、自分の興味があることを学ぶのでやはり夢中になれるし、やっていても楽しいです。でも大学は高校とは違って、単位を取得しないと卒業できません。よってここからは少し忠告なんですけど出席さえしていれば単位が貰える。テストで点を取れば出席しなくてもよい。等と思っただけは痛い目にありますよ! 受験が終わっても勉強は続きます。

17:00~19:00 サークル(テニス)

テニスサークルに入っていて平日週3でまったり活動しています。先輩方もいい人ばかりでよくプライベートでもテニスに連れてってもらっています。

19:00~22:00 アフター

サークルの後は皆でワイワイ騒ぎながら晩御飯食べます。サークルがないときは17~22時で紀伊屋書店でバイトもしています。ここでは先輩がやさしく指導してくれ、すごくアットホームなバイト先です。そして1日が終わり1時に就寝です。



8:30 起床

授業が2限からが多いため起きるのは高校の時よりも遅めです。

10:20 登校

高校の時よりも通学時間が長いので、電車で座れなかったら結構苦痛が伴います。ただ座ることができたらのんびり読書しながら通学です。

10:40 講義

大学のいいところは興味を持った講義を自由に取れること。僕は世界史が好きなので世界史関連の講義は毎回本当に楽しくて仕方ない。

12:10 昼食

学内にあるコンビニや学食で買った昼食をサークルのボックスに持ち込み、先輩や同回の友達と話しながらのんびり昼食。3限の授業に行くのが億劫になります。

13:00 講義

ここから午後の講義です。大学の授業は毎日時間は固定じゃないので2限だけの日や5限までつまっている日やまちまちですが、たいして昼まではあります。

16:00 サークル

授業が終われば、すぐさまボックスへ。軽音サークルなので毎日練習やらないですが先輩にいろいろ音楽の知識を教えていただいたりしています。やっぱり自分の好きなバンドの話や趣味の話をしている時は本当に楽しくて大学で一番好きな時間です。

18:00 帰宅

通学の時間が長いことや帰り時は混んでいることもあり、相当疲れます。この後は夕飯を食べ終わると、簿記2級やらの資格の勉強をしたり自分の時間を楽しんだりし、就寝します。

Campus Life

これがある日の1日のキャンパスライフです。その他にサークルとの対抗戦の時などは、打ち上げ等も合同で出来るので、楽しく過ごせます。夏休みにはさらに台宿もあり、仲がより深まります。ですが夏休みにはちょっと遊び呆けて過ぎてしまい、成績が少し大変でした(笑)みんなも気をつけて下さい。

Campus Life

これが僕のキャンパスライフです。このように紹介しましたが大学は必修の講義以外は、興味を持った好きな授業をとれることもありみんな一人一人全然違うスケジュールです。結構自由でやっぱり楽しいですが、テストという恐怖はやっぱり小中高からと同様、それ以上に恐ろしいです。羽目外すのはほどほどにして単位はとりましょう。でも、テストが終われば夏休み!!僕は、夏休みを最高に楽しく過ごさせてもらっています。

泉ヶ丘祭 報告

帝塚山学院 泉ヶ丘同窓会カフェ

岩元 香津子(普通科24期生)

9月18日(土)に同窓会主催の泉ヶ丘同窓会カフェが開店しました。メニューはドリンク&お菓子(スナック菓子orプチシュー)、さらにプロカメラマンによる記念撮影付きで100円で販売しました。手頃さが受け入れられたおかげでしょうか、老若男女を問わず、多くの方が来店してくださいました。また先生方や卒業生にも来店していただき、久しぶりの再会を喜びあったりなど、皆さん、思い思いの時間を過ごしてくつろいでいただけたように思います。

たくさんの方の憩いの場として泉ヶ丘同窓会カフェを利用いただき、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。また、このカフェが成功したのは、同窓会委員を含め、先生方をはじめとした多くの方々の協力があったからだと思えます。ご協力ありがとうございました。

泉ヶ丘同窓会カフェをより良いものにし、これからも皆さんに提供できるように、精進して参りたいと思います。ご支援、ご協力よろしくお願致します。



同窓会室より

平成21年度 会計報告

収入の部(21年度決算)

■ 經常会計(運営費)	
前年度繰越金	24,584,074
会費	4,720,000
雑収入	9,310
合計	29,313,384

支出の部(21年度決算)

連絡協議会分担金	159,800	活動費	207,879
贈答費	550,937	人件費	1,341,625
謝礼費	75,727	備品消耗品費	42,790
通信・慶弔費	119,894	学校協力金	200,000
郵便費	354,630	雑費	5,349
東京同窓会関連費	40,000	広報費(WEB制作)	0
会誌費	652,785	合計	3,751,416
卒業アルバム費	0		



訃報

普通科17期生 北平真士さん
元数学科教諭 橋 渡先生

心よりご冥福をお祈り致します。

住所変更された方・不明者に関する情報は、帝塚山学院泉ヶ丘同窓会事務局まで

住所 〒590-0113 堺市南区晴美台4丁2番1号 帝塚山学院泉ヶ丘同窓会事務局 TEL&FAX.072-293-8680

E-mail t.izumi@aurora.ocn.ne.jp HP http://www.tezuka-i-h.jp/dousoukai/

新校長・新教頭から「ごあいさつ」

泉ヶ丘校は今年で創立28年目を迎えます。現在は、中学校・高校6年コース(普通科)・高校3年コース(普通科理数、国際科)、すべて共学で、合計1182名が在籍しています。2013年(平成25年)には泉ヶ丘校は30周年を迎え、2016年(平成28年)は帝塚山学院が100周年を迎えます。本校1期生のみなさんは、もう幾つになったのでしょうか、懐かしいですね。最近卒業生の子供たちがたくさん本校に入学してくれています。卒業生の子弟や在校生の兄弟姉妹の入学者が多いのは、本校での学校生活を経験して頂いた上であることを考えると、本当に嬉しいことだと思っています。つながりの強さは、信頼関係の深さ、絆としての強さの表れだと考えています。学校ですから、どの時期のどの場所でもいろんなことがあり、いろんな人がいるものだと思いますが、それら乗り越えて今があるという意味で、家族的雰囲気のある学校だと思います。いろんな卒業生が頻りに学校を訪れてくれているのを見るにつけても、ほのぼのとした思いが込み上げてきます。

本校は、進学校ではありますが、数を競うという受験校ではなく、一人ひとりをよく見、適性・能力・希望を優先した進路指導やその時期そのものを大切に過ごすことで楽しい学校生活を送るということを目指しています。生徒たちの日々の雰囲気が校風になっていきます。安全で、安心して通えることが、学校の基本であり、その前提が確立されてこそ、学校の楽しさが保証されるのです。その意味で、卒業生の皆さんが作ってきた泉ヶ丘校の伝統は、貴重なものになっています。皆さんが築いてきた泉ヶ丘の伝統を今後も絶やさず、更に発展させていくために、温かな目で見守って頂ければと思います。「同窓」を大切にすることは、自分の過去ひいては現在の自分を大切にすることに繋がります。それを、更に未来へと繋げるためにも、自ら学んだ学校での思いを振り返ってほしいと思います。28年も同じ場所にいますと、どの場所にも染みついた思い出が、懐かしさとともに甦ってくる場合があります。卒業生がいつでも帰ってくるのできる学校であり続けたい、と思っています。



脇田 忠昭 校長



谷 啓介 教頭

卒業生のみなさん、お元気ですか。今年4月より、教頭を務めさせていただいております。今年の中学1年生31期生は平成9、10年生まれです。私も泉ヶ丘校にお世話になってから、25年が経ちました。卒業生も6000人を越え、最近卒業生のご子弟がどんどん入学されており、月日の経つ速さに自分がついていけない感じがしています。

昨年、私の高校時代の恩師から20年ぶりに電話がありました。スキーを初めて指導してくださった先生です。ご病気で、10年間療養されていたのですが、全快され、久しぶりにスキーをしたいので一緒にスキー板を買いに行ってくれというお誘いでした。お店の方に、「20年間ぐらいは傷まない丈夫なスキー板を紹介してくれ。」と注文されていました。元気になられた先生とほのぼのとした時間を過ごすことができました。

私も担任をした学年はもちろんのこと、クラブ活動等を通して出会った、たくさんの卒業生の方とお会いする機会があります。卒業生の中でも、同じ泉ヶ丘校の卒業生ということで、大学や職場で新たな出会いがあると聞いています。もちろんいろいろな方面の友人をつくることは大事ですが、高校時代に同じ場所、同じ先生と過ごしたという経験は、一生のつながりになってきます。

泉ヶ丘校とご無沙汰している卒業生のみなさんも、遠慮なく学校に遊びに来てください。お待ちしております。

Club activity Report 2010 部活動報告

ワンダーフォーゲル 顧問 山本 滋樹

いま、一枚の写真を眺めています。川田先生にさそわれるままに顧問の一人に名を連ねて間もない時期のもので、玉川峡の河原でとった集合写真で、創立当初の部員たちの懐かしい顔が並んでいます。ワンダーフォーゲル部は学校創立の年、川田先生を顧問として創部され、その年の9月、同河原で実施した飯ごう炊さん例会を第1回として活動を開始しました。その後、川田先生の引退にともない2000年に顧問代表を引き継ぎましたが、気がつくときからでもすでに10年を越えています。この20数年の間に、ワンダーフォーゲル部や山岳部をもつ学校は少なくなり、泉ヶ丘校のワンダーフォーゲル部は稀有で貴重な存在となりつつあります。私も川田先生が引退された年齢に近づいており、これからのワンダーフォーゲル部の面倒をみていただける元気で若い顧問を募集中です。



玉川峡河原にて(1984年)

最近、近隣の山をメインに毎年10回程度の例会を続けており、今年6月に六甲山で240回目の例会を迎えました。男女共学への移行により女子中学生部員も入部しており、ここ数年は20名程度の部員数を維持しています。活動そのものはハードな登山部というよりは自然を満喫する山歩きクラブという雰囲気が強くなってきていますが、これも時代の流れかと思っています。

最後に、この場をかりてワンゲルOBの卒業生の皆さんに一つお願いがあります。毎年OB会を実施して旧交を温めています、連絡先のわからない方がたくさんおられ残念に思っています。OB会の案内が届いていない方がおられたら、連絡先を学校(理科 山本)宛にお知らせいただければ幸いです。よろしくお祈りします。

いがあります。毎年OB会を実施して旧交を温めています、連絡先のわからない方がたくさんおられ残念に思っています。OB会の案内が届いていない方がおられたら、連絡先を学校(理科 山本)宛にお知らせいただければ幸いです。よろしくお祈りします。

六甲・横池にて(第240回例会)

演劇部

私達演劇部の主な活動は泉ヶ丘祭での発表です。普段は過去に上演した台本などを讀んだりしていますが、8月くらいになると泉ヶ丘祭での劇の練習で皆張り切っていて、発表が楽しみです。

12月には大会もあるそうです。これは他校から良いところを学び、同時に自分達の演技を見てもらえる良い機会だと思います。

演劇部はとてもフレンドリーで、部員達の笑顔が絶えないすごく居心地の良い部活です。初めは人間関係などが上手くいかという不安がありました。私はこの雰囲気が好きです。

泉ヶ丘祭では私達で作らせた劇を発表します。一生懸命に頑張った成果を、ぜひ見に来てください。



卒業生 母校に 帰る



前田宏樹(理科)先生

私が帝塚山学院泉ヶ丘中学校へ入学したのが24年前。泉ヶ丘校での6年間を経て、大学・大学院へ進学しました。工学部に進学したため、大半の友人は一般企業に就職しましたが、私は母校の先生方への憧れもあり、教職の道を選びました。

初めの6年間は別の学校に勤務していましたが、縁あって泉ヶ丘校の理科教員として教鞭を取ることができ、今年で6年目です。中学・高校でお世話になった先生方と一緒に仕事をすることに初めは違和感がありましたが、今ではそのようなこともなく、とてもよい環境で仕事ができることに感謝しています。

今年度は高校2年生の担任をさせていただいており、生徒たちが中学1年生として入学してから5年半、共に過ごしてきました。入学してきた当初はとても幼かった彼らも日々成長し、私もまた生徒たちから教えられる毎日です。

生活合宿や学習合宿、スキー合宿など様々な宿泊行事がありましたが、この10月には研修旅行に行き、その後は受験に向けてさらなる勉強を始めます。自分が高校生のときに先生方からいただいたアドバイスを思い出しながら、今度は今の生徒たちが1年半後に全員が自らの希望する道に進めるよう、サポートしていきたいと思っています。

本校も開校28年目となりました。私学にとって厳しい時期が続いていますが、この状況の中、泉ヶ丘校が発展し続けるために努力してまいります。卒業生の皆さまにも今後ともご支援いただけますよう、よろしくお願いいたします。

アドミッションセンターより

ごあいさつ



登 純一郎 副校長

卒業生の皆さん、元気にご活躍のことと思います。
私も、帝塚山学院泉ヶ丘校で、開校時からお世話になり、また育てられ、教員生活も30年を迎えることになり、この4月から副校長という職務につくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。
今私学は、少子化と不況という社会問題の中で、大変厳しい時代を過ごしています。
しかし、こういう時こそ私学のよさ、特に泉ヶ丘の精神と、卒業生が積み上げてきた伝統を大事にし、泉ヶ丘校の軸がぶれることなく、生徒・人材を育てることが、必要だと私は思っています。
この間、サッカーの祭典「FIFA WORLD CUP南アフリカ大会」が開催されました。私もサッカーにたずさわる一人として、この試合を見て、とても喜ばしくもあり、また悔しくもありました。国際Aマッチ4連敗でワールドカップを迎え、あれだけマスコミからの批判にさらされても、岡田監督(帝塚山学院小学校出身)は、チームとして同じ方向に向かって、サッカーをし、お互いに認め合いながら、信頼関係を築いて行きました。そして、チームとして乗り越えた一次予選突破は、日本の国民に大きな感動をあたえました。私も3戦とも卒業生と共に応援し、喜び合いました。しかし一方では、チャンスのときには、結果を残しておいてほしかったとも思っています。決勝トーナメントの1回戦・パラグアイの一戦で勝ち、ベスト8に入ってほしかったのです。

私達教員も、卒業生や保護者、生徒達と、一つひとつの出会いを大切にしながら、一枚岩となり岡田ジャパンのように忍耐力とチームワークで、私学の厳しい時代を頑張って乗り越え結果を出したいと思えます。

泉ヶ丘校も、開講30周年を迎えようとしています。この間に、本校の卒業生の子供さんが入学してこられています。また、泉ヶ丘校の学校説明会に、卒業生が話をしてくれることもあります。さらに、クラブ活動の面倒や応援などにも、卒業生にも関わってもらっています。そして、卒業生が教員となって、本校で生徒を指導しています。30年の時を経て、多くの卒業生に本校は支えられていると言えるのです。そしてこれからも、より多くの卒業生に、支援・サポートをお願いしたいと思います。

卒業生の皆さんも、ぜひ体育大会・泉ヶ丘祭、見学にきていただき、現役生といっしょに応援していただきたいと思っています。
最後になりましたが、卒業生の皆さん、お身体を大切に、それぞれの分野でのご活躍をお祈りいたします。

平成23年度 入試のお知らせ

【入試関連行事の日程】

※ 下記の入試関連行事は、本校にて開催します。詳細はHPでご確認ください。

中学入試関連	入試説明会	10月 2日(土) 14:00~	児童・保護者対象の説明会です(予約不要)。
	プレテスト	11月 3日(水・祝) 8:20~	小学6年生対象で、事前の予約が必要です。同時に、保護者対象の入試説明会も開きます。
	プレテスト個別懇談会	11月13日(土) 9:00~	懇談の予約は、プレテストの後に受け付けます。
高校入試関連	高校体験入学	10月23日(土) 13:30~	中学3年生対象で、事前の予約が必要です。
	入試説明会	11月 6日(土) 14:00~	生徒・保護者対象の説明会です(予約不要)。
	入試説明会	12月 4日(土) 14:00~	生徒・保護者対象の説明会です(予約不要)。



撮影:長谷渡 淳弘(普通科10期生)

【中学校入試について】

■ 募集人数・日程

コース 定員	区分 日程		
	1次入試 1月15日(土)	2次入試 1月16日(日)	後期入試 1月18日(火)
医 進(約40名)	約 110 名	約 40 名	約 10 名
特進 A(約80名)			
特進 B(約40名)			

● 専願・併願制

専願は、泉ヶ丘校を第一志望とし、合格した場合は入学していただくことを条件とします。

● 特待生・特奨生制度

特待生(入学金の全額、年間授業料の全額を免除) } あわせて約10名
特奨生(入学金の全額、年間授業料の半額を免除) } (平成22年度 実績16名)

※特待生、特奨生を希望する方は、ぜひ入試プレテストにご参加ください。

【高校入試について】

■ 募集人数・日程

コース 定員	区分 日程		
	1次入試 2月10日(木) 11日(金・祝)	1.5次入試 2月16日(水)	帰国生入試 1月18日(火)
普通科(理数S)	約 80 名	若干名	約 5 名
普通科(理数)			
国際科			

● 特待生・特奨生制度

特待生(入学金の全額、年間授業料の全額を免除) } あわせて約9名
特奨生(入学金の全額、年間授業料の半額を免除) }



携帯サイトは
コチラ!
上のQRコードから
アクセスして下さい。

学校案内や募集要項などの資料の請求、入試に関するお問い合わせは泉ヶ丘校アドミッションセンターまでお願い致します。連絡先は下記の通りです。

アドミッションセンター TEL.072-293-1416 FAX.072-293-1417 E-mail nyusi@tezuka-i-h.jp



第20回 帝蹴会蹴球会ゴルフ大会

前岡 孝範(普通科5期生サッカー部)

卒業生の皆様こんにちは。サッカー部5期生の前岡です。私たちサッカー部OBは高校を卒業後、大学で体育系のクラブを続けている者もいれば、サッカー部OBチームに入り社会人リーグで楽しくサッカーを続けている者もいます。しかし皆年齢を重ねるとさすがに体力的にも無理が生じOBチームを引退、趣味もサッカーからゴルフにと変わりました。平成12年にはOBでの縦(先輩~後輩)の繋がりが出来る機会を作ろうと登先生はもちろんのこと、在学中にお世話になった先生方、上は1期生・2期生の先輩方からは19期生まで、総勢54名にまでなりました。最近ではこのコンペの趣旨の通り、ゴルフを通じて面識のなかった先輩・後輩が親しくなり個別で食事に行ったり、釣りに出かけたりと交友が広がっているようです。この機会にゴルフに自信のある方やゴルフを始めたいばかりの方もすがすがしい青空の下、新鮮な空気と緑の中で仕事を離れリフレッシュされてはどうでしょうか?先輩達、後輩達と新しい繋がりが作りませんか?参加希望の方は各学年のキャプテン経由で前岡までよろしくお願いします。



始球式 がんばるぞ~!



第20回 ゴルフコンペ開催

100周年記念募金事業のお願い

学校法人帝塚山学院は、創立100周年を期に、深刻かつ急激な情勢変化等により経済的に修学困難となった学生・生徒・児童たちが一人でも多く進学・卒業できるように、独自の奨学金制度をスタートさせたいと考えております。創立100周年を期に募る募金は、全額この「帝塚山学院奨学金基金」の資金に充当します。

募金要項の骨子

- ① 募金目標額 3億円 募金口数 1口3万円(2口以上のご協力をお願いします) ※1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします。
- ② 募集対象 本事業に賛同頂ける、在校生および卒業生の保護者、新旧の教職員、同窓生、学院関係者並びに法人(企業)
- ③ 募金使途 学生・生徒・児童への奨学金基金に充当します。
- ④ 募金期間 2010年7月から2016年3月まで ※期間終了後も継続して募集してまいります。
- ⑤ 芳名録の作成 寄付申込を提出された方々のお名前を継時的芳名録に記載し、「学院通信」などでお知らせいたします。最終的には募金期間終了後、寄付金の金額を記した最終芳名録を作成し、学院に永久保存して顕彰させていただきます。なお、ご本人の希望により匿名扱いもいたします。

お問い合わせ

学校法人帝塚山学院 創立100周年記念事業局 〒558-0053 大阪市住吉区帝塚山中3-10-51
Tel : 06-6672-1960 Fax : 06-6678-8797 E-mail : 100nen@tezukayama.ac.jp URL : http://www.tezukayama.ac.jp

帝塚山学院泉ヶ丘中学校高等学校

総会・懇親会のお知らせ

日時

2010 **11月14日(日)**
12:00~15:00 [受付11:30~]

会場

スイスホテル南海 浪華の間 8F

会費

1期~20期 / 5,000円
21期~25期 / 3,000円
一般参加者 / 8,000円 (同伴者)
※お子様連れの方は、お問い合わせ下さい。

申込み方法

FAX(下記お申込書)、もしくはE-Mailで

締切り

10月20日(水)

お問い合わせ

帝塚山学院泉ヶ丘同窓会
〒590-0113 堺市南区晴美台4丁2番1号
TEL・FAX.072(293)8680
E-Mail:t.izumi@aurora.ocn.ne.jp

第6回 泉ヶ丘校 総会・懇親会申込書

FAX送信票

お支払 (郵便振替口座振込 ・ 当日現金払い)

※どちらかを選んで○を付けて下さい

フリガナ	フリガナ		男・女
お名前	旧姓		
コース	普通科 ・ 国際科 (期生)	会員番号	
ご住所	〒 -		
		Eメール	
TEL/FAX	TEL. ()		
	FAX. ()		

FAX送信先 **072-293-8680**